

すべてのワンちゃんに

ちょうどいい“距離感”を

イエローリボンは、

「今は人や他のワンちゃんと距離を保ちたい」という、

ワンちゃんと飼い主さんのサインです。一方で、

“触れ合いが社会化につながる”ワンちゃんもいます。

大切なのは、ワンちゃんそれぞれのサインに気づくこと。

お互いが安心して過ごせるよう、

イエローリボンなどの目印を知り、

思いやりのある関わりを心がけましょう。



どうぶつに関するお役立ち情報はこちら

anicom you

どうぶつに関する
お役立ち情報を発信
する総合メディア



hugU

里親になりたい方を
つなぐ「里親マッチ
ングサイト」



埼玉県のペットに関する相談先はこちら

埼玉県ホームページ

「保健所・動物指導センター一覧」

埼玉県でのご相談はお住まいの近くにある
保健所や動物指導センターへ



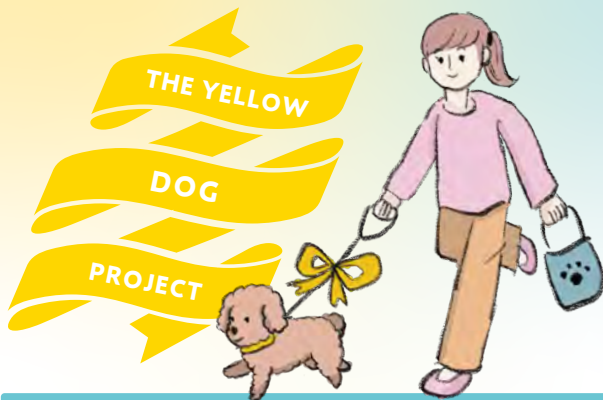
埼玉県マスコット
「コバトン」

このリボン
気づいて
くれますか？



やさしさを広げるイエローリボン

ワンちゃんたちが「そっと見守ってほしい」と伝えるサイン、
それが『イエローリボン』です。



イエローリボン運動って何？

1990年代頃から、オーストラリアの一部のドッグクラブでは、周囲の刺激に敏感なワンちゃんを目印として、黄色のリボンが使われていました。その取り組みに着想を得て、動物愛護活動の盛んなスウェーデンでは、2012年から「イエローリボン運動」が始まったとされています。



なぜイエローリボンをつけるの？



「ワンちゃんはみんな社交的」と思われがちですが、なかには人や他のペットが苦手な子もいます。そんなワンちゃんたちの気持ちを伝えるサインがイエローリボンです。見かけた時には、やさしく距離を取って見守ってあげてください。

どんな子が

イエローリボンをつけている？

お散歩しているワンちゃんにも色々な事情があります。
そっと見守ることも優しさです！

怖がりな子・警戒心が強い子

初対面の人やペットが苦手である／急に触られると、強いストレスを感じ、吠えたり逃げたりしてしまう



ケガ・病気・手術後などで 安静に過ごしている子

他のペットとの接触で感染リスクがある
／リハビリ中のため興奮や衝撃を避けたい



高齢犬・聴覚・ 視覚障がいのある子

反応が遅い、また驚きやすい／近づくまで気が付かないので、急に驚いてしまうことがある



社会化・トレーニング中の子

飼い主と一緒に社会性を学んでいる段階である／人との信頼が構築途中である



攻撃性のある子 咬んでしまうリスクがある子

近づかれることで強く防衛反応を示すことがある／子どもや他のペットに対し、パーソナルスペースが必要である



保護犬・ 新しい環境にきたばかりの子

元野犬、繁殖引退犬、多頭飼育崩壊現場から保護された犬など、人間社会に慣れていない

